

葛飾図書館友の会特別講演会報告

朝野熙彦葛飾図書館友の会会長講演

『AIとプログラミング教育

～AIとは何か？ 子どもたちへの教育はどうなる？～』

朝野熙彦会長を講演者とする特別講演会を、1月29日(土)に中央図書館会議室にて開催しました。近年、社会で関心を集めているAIをテーマに取り上げた講演会です。オミクロン株感染者数が急増中で心配しましたが、幸い、滞りなく開催できました。

講演ではコンピュータ開発の歴史、AIは賢く考えることができるか等の説明の後、AIが実際に学習する様子を朝野会長が開発したプログラムを使って見る実演がありました。続いて学校でのプログラミング教育に関しては、多くの課題と懸念があることの指摘がありました。

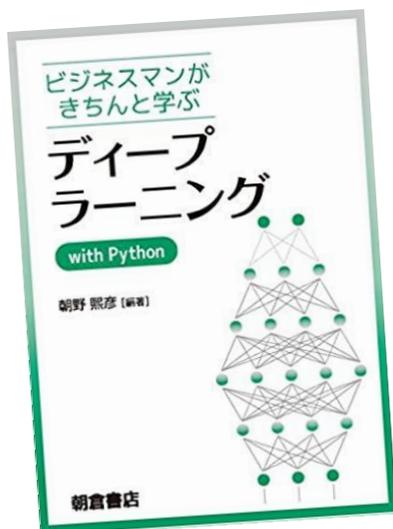
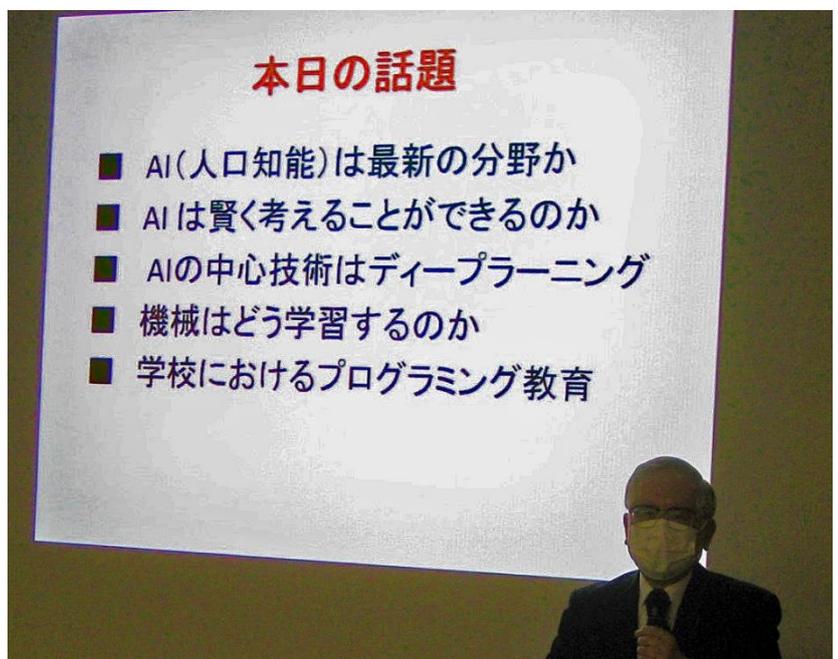
質疑応答では、子どもたちのプログラミン

グ教育をどうしたらよいか、情報が重視されるこれからの時代に文系の人間はついていけるか、若い人はスマホを自由に使いこなせるが自分たちは時代についていけるか、など多くの質問が出されました。

講演と質疑応答をまとめると、AIは重要ではあるが万能ではなく、人間の創造的な活動を代行することは将来もできない・自分が文系であることや年齢など気に掛ける必要はない・学校でのプログラミング教育を他科目よりも重要視することはない、というのが論旨でした。

実際にIT(情報技術)関係に従事しておられる方や、進路指導に悩む保護者の方の参加もあり、みな真剣に講演を聴いておられ、質疑応答も積極的で、会場の雰囲気盛り上がりしました。

なお、AIの歴史とプログラミングの方法については朝野会長の書籍があるので、AIに関心のある方は参考にしてください。中央図書館にも所蔵されています。
(イベントクラブ 北野)



第15回総会 4月30日（土）に決定 3年ぶりの対面形式で開催、役員改選も議題

新型コロナウイルス感染症の流行拡大により、「友の会」活動の主たる会場である中央図書館会議室は「緊急事態宣言」や「まん延防止等重点措置」の発令で、利用出来ない状況が断続的に長期間続きました。毎年4月に開催してきた総会も一昨年及び昨年はハガキによる「書面議決」方式に切り替えざるを得ませんでした。会員の協力により継続した運営は進められています。

今年度は下記の通りの内容で、会員が久しぶりに集う対面方式による総会の開催が可能になりました。今総会は任期2年の役員の改選も議題になりますので、立候補される方は総会前までに総務へお申し出下さい。

会員の皆様の出席と、活動に興味のある方の見学や傍聴をお願いします。

総会の開催にあたり、会員の方々には4月中旬に総会議案書と委任状を兼ねた総会出欠ハガキなどを郵送します。締切日までにハガキの投函をお願いします。

なお、「友の会」活動の紹介や親睦を深めるため、総会後に開店してきた“ライブラリーカフェ”は総会会場が当面コロナワクチン接種会場になっていることなどを考慮し、休業しますのでご了承下さい。

第15回葛飾図書館友の会総会 開催のお知らせ

日時：2022年4月30日（土） 午後2時より

会場：葛飾区立中央図書館 会議室1

- 議題：（1）2021年度活動報告
（2）2021年度収支報告
（3）2021年度会計監査報告
（4）役員改選
（5）2022年度活動計画（案）
（6）2022年度予算（案）

「友の会ウィーク」に代わり「友の会展」を開催 11月7日（日）～21日（日）



うに工夫をこらそうと役員会で確認したことを受け、各委員会・クラブはそれぞれ掲示・展示をいたしました。

「おはなしくらぶ」の指人形などを中心とするカラフルな展示、ナイトシアタークラブのポスター等々、見学者に楽しんでいただけた友の会展になったのではと思います。（イベントクラブ 北野）

毎年11月恒例の、友の会や図書館で活動する登録団体などによるイベントである「友の会ウィーク」は、昨年度に続き新型コロナにより中止し、「友の会展」として開催しました。

11月の二週間、中央図書館の展示コーナーに友の会の紹介パネル、各委員会・クラブの紹介ポスター、実施したイベントのポスター、各種資料などを掲示・展示しました。

過去のイベントなどを単に掲示するだけでなく、見る人が分かりやすいよ



シリーズ⑧

こんな本みつけた！ こんな本よんだ！

『真珠の耳飾りの少女』 レイシー・シュバリエ著

訳者：木下哲夫（白水Uブックス）

1664 - 1665年 そして1676年

肩越しに振り返り、濡れた唇に情感を漂わせ、大きな瞳でこちらを見ている青いターバンを巻いた少女。真珠の耳飾りに秘められた物語。

モデルとなったフェルメール家の女中フリートをめぐり、旦那様（フェルメール）と妻カタリーナ、同居するカタリーナの母親、5人の子供たち（最終的には11人の子持ちとなる）、女中の先輩タンネケ（牛乳を注ぐ女のモデル）、そして将来の夫となる精肉屋の息子ピーテルたちとが織りなす小都市デルフトの一角での人間模様。そうそう、旦那様の重要な顧客で、フリートにちょっかいを出すファン・ライフェンの存在も無視できません。大きな目の17才のフリートはさぞかし魅力的だったのでしょ。

カタリーナのフリートに対する嫉妬心との闘い、嫌がらせをする子供、バランスを取ろうとするカタリーナ母、常に画家の目を通して（と思われる）フリートに接している旦那様、一枚の世界的名画が出来上がるまでの過程は、ページを追うごとに複雑な人間模様との絡み具合とともに興味が増幅していきました。

プロテスタントとカトリックの静かないがみあいと共存も随所に描かれていて、当時の社会状況の一端を垣間見ることができます。

時がたつにつれて、フリートは旦那様の重要な助手になっていきました。カメラ・オブスクラを巧みに使用する旦那様とその手伝いをするフリート。旦那様から色の選定に助言を求められ、茶色と返答するフリートに「なぜ茶色を選んだのかね」、青と黄色は淑女の色だということを旦那様に申し上げるのも気が進まない、はにかむ純真なフリート。そして旦那様の画家魂。水差しと水盤に数か月の月日をかけて描く旦那様、椅子に掛ける布やモデルの娘さんの胴着と違い、水差しと水盤は何よりも手が込んでいてこういう色でなければならぬという色へ仕上げていく様子はフェルメールの穏やかで強靱な執念を感じます。

数か月後、フリートがモデルとなった「真珠の首飾りの少女」が出来上がった時、絵の前にはパレットナイフを持って絵のなかのフリートにダイヤモンドの刃を突き立てようとするカタリーナがいました。その後の展開と結末や如何に。

木下哲夫氏 「著者はフェルメールの絵のような小説を志したのではないか。フェルメールの絵は言うまでもなく、芸術のジャンルを問わずとびきりの上物。較べる相手としてはモーツァルトくらいしか思いつかないほどの傑出した存在。」



（読書クラブ 島崎陽子）



友の会ホームページ（QRコードをスマホでスキャン）



図書館友の会の最新情報をホームページで発信しています。毎月のイベントの情報をチラシ画像も併せて掲載。「友の会通信」、「たんしん」のデータも載っています。これまでの「友の会ウィーク」の記録や、キーワード読書会の読書リストも掲載。友の会の会則や入会届もここから入手できます。 <https://katsutomo.jimdofree.com/>

